

syllabus

(2021年度)

学校法人巨樹の会
福岡看護専門学校 第2科

目 次

教育課程内訳	1
教育課程進度表	2
評価計画	4

【基礎分野】

英会話	6
-----	---

【専門基礎分野】

薬理学	7
公衆衛生学	8
社会福祉	9
医療関係法規	10

【専門分野Ⅰ】

基礎看護学

Ⅵ	11
---	----

【専門分野Ⅱ】

成人看護学

Ⅱ	13
Ⅲ	16
Ⅳ	20

老年看護学

Ⅱ	23
Ⅲ	24

小児看護学

Ⅱ	26
Ⅲ	28

母性看護学

Ⅱ	29
Ⅲ	30

精神看護学	
II	31
III	33

【統合分野】

在宅看護論	
II	35
III	36
看護管理	38
災害看護・国際看護	40
医療安全	42
臨床看護の実践	43

シラバス

教育課程内訳

第2科 (別表2)

教育内容	授業科目	単位	時間	実施時間		
				1年	2年	3年
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	30	
		情報科学	1	30	30	
	人間と生活社会の理解	家族社会学	1	30	30	
		倫理学	1	30	30	
		心理学	1	30	30	
		環境論	1	30	30	
		英会話	1	30		30
健康と運動	1	30	30			
基礎分野・小計		8	240	210	30	0
専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	解剖生理学Ⅰ	1	30	30	
		解剖生理学Ⅱ	1	30	30	
		解剖生理学Ⅲ	1	30	30	
		生化学	1	15	15	
		栄養学	1	15	15	
		薬理学	1	30		30
		病理学Ⅰ	1	30	30	
		病理学Ⅱ	1	30	30	
		機能回復論	1	30	30	
		微生物学	1	30	30	
	健康支援と社会保障制度	医療保健論	1	15	15	
		公衆衛生学	1	15		15
		社会福祉	1	30		30
		医療関係法規	1	15		15
専門基礎分野・小計		14	345	255	60	30
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	1	30	30	
		基礎看護学Ⅱ	1	45	45	
		基礎看護学Ⅲ	1	30	30	
		基礎看護学Ⅳ	1	45	45	
		基礎看護学Ⅴ	1	45	45	
		基礎看護学Ⅵ	1	30		30
	臨地実習	基礎看護学実習	2	90		90
専門分野Ⅰ・小計		8	315	195	120	

教育内容	授業科目	単位	時間	実施時間			
				1年	2年	3年	
成人看護学	成人看護学Ⅰ	1	30	30			
	成人看護学Ⅱ	1	30		30		
	成人看護学Ⅲ	1	30		30		
	成人看護学Ⅳ	1	30		30		
老年看護学	老年看護学Ⅰ	1	30	30			
	老年看護学Ⅱ	1	30		30		
	老年看護学Ⅲ	1	30		30		
小児看護学	小児看護学Ⅰ	1	30	30			
	小児看護学Ⅱ	1	30		30		
	小児看護学Ⅲ	1	30		30		
母性看護学	母性看護学Ⅰ	1	30	30			
	母性看護学Ⅱ	1	30		30		
	母性看護学Ⅲ	1	30		30		
精神看護学	精神看護学Ⅰ	1	30	30			
	精神看護学Ⅱ	1	30		30		
	精神看護学Ⅲ	1	30		30		
臨地実習	成人看護学実習	2	90		90		
	老年看護学実習	2	90		90		
	小児看護学実習	2	90			90	
	母性看護学実習	2	90			90	
	精神看護学実習	2	90			90	
専門分野Ⅱ・小計		26	930	150	510	270	
統合分野	在宅看護論	在宅看護論Ⅰ	1	30	30		
		在宅看護論Ⅱ	1	30		30	
		在宅看護論Ⅲ	1	30		30	
	看護の統合と実践	看護管理	1	15			15
		災害看護・国際看護	1	15			15
		医療安全	1	30		30	
		臨床看護の実践	1	30			30
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90			90
		統合実習	2	90			90
	統合分野・小計		11	360	30	90	240

教育内容	単位	総時間数	1年生	2年生	3年生
基礎分野	8	240	210	30	0
専門基礎分野	14	345	255	60	30
専門分野Ⅰ	8	315	195	120	0
専門分野Ⅱ	26	930	150	510	270
統合分野	11	360	30	90	240
総時間	67	2190	840	810	540

教育課程進度表

教育内容	単位数	科目	単位	時間	1年次												2年次												3年次											
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
基礎分野	2	論理学	1	30	■			■			■																													
		情報科学	1	30				■			■																													
	6	家族社会学	1	30	■			■																																
		倫理学	1	30	■			■																																
		心理学	1	30				■			■																													
		環境論	1	30				■			■																													
		英会話	1	30							■			■			■																							
健康と運動	1	30	■			■																																		
専門基礎分野	3	解剖生理学Ⅰ	1	30	■			■			■																													
		解剖生理学Ⅱ	1	30	■			■																																
		解剖生理学Ⅲ	1	30				■			■																													
	7	生化学	1	15				■			■																													
		栄養学	1	15				■			■																													
		薬理学	1	30							■			■																										
		病理学Ⅰ	1	30	■			■																																
病理学Ⅱ		1	30				■			■																														
機能回復論		1	30				■			■																														
4	微生物学	1	30	■			■																																	
	医療保健論	1	15							■			■																											
	公衆衛生学	1	15													■			■																					
	社会福祉	1	30							■			■																											
医療関係法規	1	15																■			■																			
専門分野Ⅰ	6	基礎看護学Ⅰ	1	30	■			■																																
		基礎看護学Ⅱ	1	45				■			■																													
		基礎看護学Ⅲ	1	30	■			■																																
		基礎看護学Ⅳ	1	45	■			■																																
		基礎看護学Ⅴ	1	45	■			■																																
		基礎看護学Ⅵ	1	30				■			■																													
	2	基礎看護学実習	2	90							■			■																										

教育内容	単位数	科目	単位	時間	1年次												2年次												3年次											
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学Ⅰ	1	30							30																													
		成人看護学Ⅱ	1	30													30																							
		成人看護学Ⅲ	1	30													30																							
		成人看護学Ⅳ	1	30																			30																	
	老年看護学	老年看護学Ⅰ	1	30													30																							
		老年看護学Ⅱ	1	30													30																							
		老年看護学Ⅲ	1	30																			30																	
	小児看護学	小児看護学Ⅰ	1	30							30																													
		小児看護学Ⅱ	1	30													30																							
		小児看護学Ⅲ	1	30																			30																	
	母性看護学	母性看護学Ⅰ	1	30							30																													
		母性看護学Ⅱ	1	30													30																							
		母性看護学Ⅲ	1	30																			30																	
精神看護学	精神看護学Ⅰ	1	30							30																														
	精神看護学Ⅱ	1	30													30																								
	精神看護学Ⅲ	1	30																			30																		
臨地実習	成人看護学実習	2	90																			90																		
	老年看護学実習	2	90																			90																		
	小児看護学実習	2	90							90																														
	母性看護学実習	2	90																			90																		
	精神看護学実習	2	90																			90																		
統合分野	在宅看護論	在宅看護論Ⅰ	1	30							30																													
		在宅看護論Ⅱ	1	30													30																							
		在宅看護論Ⅲ	1	30																			30																	
	看護の統合と実践	看護管理	1	15																			15																	
		災害看護・国際看護	1	15																			15																	
		医療安全	1	30													30																							
		臨床看護の実践	1	30																			30																	
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90																			90																	
		統合実習	2	90																			90																	
	計	67		67	2190	840												810												540										

第2科 評価計画（令和3年度）

	授業科目	単元	単位	時間	配点	満点	評価責任者
基礎分野	英会話		1	30	100	100	井上 和子
専門基礎分野	薬理学		1	30	100	100	永淵 学
	公衆衛生学		1	15	100	100	吉田 貴美代
	社会福祉		1	30	100	100	石塚 優
	医療関係法規		1	15	100	100	西 貴倫
専門分野Ⅰ	基礎看護学Ⅵ		1	30	30	100	久保田 多見子
専門分野Ⅱ	成人看護学Ⅱ		1	30			
		呼吸器			30	100	柳田 和之
		循環器			40		
		脳神経			30		
	成人看護学Ⅲ		1	30			
		内分泌			30	100	宇野 恵里華
		腎・泌尿器			40		
		膠原病			/		
		運動器			30		
	成人看護学Ⅳ		1	30			
		消化器			50	100	櫻井 亜衣
		血液・造血器			/		
		女性生殖器			50		
	老年看護学Ⅱ		1	30	100		和田 聖美
	老年看護学Ⅲ		1	30			
					50	100	萩尾 奈津子
					50		
	小児看護学Ⅱ		1	30			
					50	100	藤野 千加子
					50		
	小児看護学Ⅲ		1	30	100	100	藤野 千加子
	母性看護学Ⅱ		1	30	100	100	上川 靖子
	母性看護学Ⅲ		1	30	100	100	上川 靖子
	精神看護学Ⅱ		1	30			
				50	100	高口 博史	
				50			
精神看護学Ⅲ		1	30				
				30	100	川上 みゆき	
				70			

	授業科目	単元	単位	時間	配点	満点	評価責任者
統合分野	在宅看護論Ⅱ		1	30	100	100	山村 ひと美
	在宅看護論Ⅲ		1	30	100	100	山本 真由美
	看護管理		1	15			
					60	100	久保石 佳子
					40		
	災害看護・国際看護		1	15			
		災害看護			50	100	酒井 康江
		国際看護			50		
	医療安全		1	30	100	100	小池 久美
	臨床看護の実践		1	30	100	100	倉元 聖子

基礎分野

2年課程

領域	基礎分野		単位 (時間数)	1 (30)
授業科目	英会話		講義回数	14回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	井上 和子		講師所属	
<p><授業のねらい> 増加してきた外国人の患者さんとコミュニケーションがとれるようにすることと、医療現場で使用される可能性のある医療・看護の専門英語を習得する。</p>				
<p><授業目標> 医療に関する英単語及び基本的英語表現を習得し、外国人患者さんに的確な対応ができるようにする</p>				
<p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 教材の説明、授業の受け方 Unit 1. Is this your first visit to this hospital? この病院は初めてですか? (初診の受付) Unit 2. What's the matter? どうされましたか? (症状を聞く・身体外部の名称) Unit 3. You need to go to dermatology. 皮膚科に行く必要がありますね。(診療科) Unit 4. Let me direct you to radiology. 放射線科へご案内しましょう。(院内案内) Unit 5. Let's check your height and weight. 身長と体重を測りましょう。(健康診断) Unit 6. I need to ask you some questions. いくつかお尋ねします。(病歴) Unit 7. Can you describe the pain? どんな痛みか言えますか? (痛みと怪我) Unit 8. Rest your arm on the armrest. 腕をアームレストに乗せて下さい。 (診察・検査時の指示) Unit 9. Please make a follow-up appointment. 次回の予約をして下さい。(受診の予約) Unit 10. Take this medicine after meals. 食後にこの薬を飲んでください。(与薬) Unit 11. Your operation will be this afternoon. 手術は今日の午後です。(手術) Unit 12. Are you feeling more comfortable now? 気分が良くなりましたか? (情報・説明) Unit 13. This is an emergency. こちらは救急です。(救急医療) Unit 14. Tests show you have high sugar levels. 検査では血糖値が高いです。(検査) 				
<p>授業の進め方 テキストに沿って進める。補助教材としてプリント教材を使用する。 講師の説明と学生の発表形式、ペアやグループでの会話演習で授業を進めていく。 習熟度確認のために小テストをする。</p>				
<p>教科書 English for Nurses 看護系学生のための実践英語 (改訂版) 山中マーガレット朝日出版社</p>				
<p>参考図書</p>				
<p>評価方法 定期試験の成績</p>				

專 門 基 礎 分 野

領域	専門基礎分野		単位（時間数）	1（30）
授業科目	薬理学		講義回数	14回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	永渕 学	講師所属	福岡和白病院	

<授業概要>

1. 臨床上知っておくべき看護上の薬剤の知識
2. 国家試験でよく出題される薬剤の知識
3. 医療事故と薬剤 ～ リドカイン注射液の濃度について
アスピリン喘息について
カリウム含有注射液の投与スピードについて など
4. 薬剤使用における日常生活上の注意点

授業の進め方

以上の点に重点をおきながら、教科書に沿って進めていきます。

教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③ 医学書院

参考図書

評価方法

評価は出席および試験の成績で行う。

領域	専門基礎分野	単位（時間数）	1（15）
授業科目	公衆衛生学	講義回数	7回＋テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期 後期 通年
担当講師	吉田 貴美代	講師所属	
<p><授業のねらい></p> <p>公衆衛生とは何か、人々の健康とは何かを学び、公衆衛生活動や健康づくりのための組織、医療従事者としての役割機能への理解を深める。</p> <p><授業目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の定義と予防医学、健康づくりについて公衆衛生活動の領域・特徴を学ぶ。 2. 公衆衛生活動の国際的動向や、日本における公衆衛生行政活動を学ぶ。 3. 日本における保健統計・動向や、地域・職域保健活動の取組みを学ぶ。 4. 健康と環境について学ぶ。 <p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の概念・健康づくりと日本と国際的動向 2. 国際保健・保健行政（国・都道府県・市町村）組織的役割 3. 国民の健康と保健統計・健康の指標・疫学的方法 4. 地域保健活動（感染症対策と予防） 5. 健康と環境 6. 産業保健 7. 学校保健 			
<p>授業の進め方</p> <p>教科書の内容に沿って講義を行う。</p> <p>国民衛生の動向を参考図書とする</p>			
<p>教科書</p> <p>『系統看護学講座 専門基礎分野 [2] 公衆衛生』《医学書院》</p> <p>参考図書</p> <p>国民衛生の動向2020／2021（厚生統計協会）</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験による評価、状況に応じて「レポート課題」または「ミニテスト」</p>			

2年課程

領域	専門基礎分野		単位（時間数）	1（30）
授業科目	社会福祉		講義回数	14回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	石塚 優		講師所属	
<授業概要>				
<p>目的：現代社会における社会福祉とは何か、その現象、理念、意義を学び、さらに社会福祉の制度体系や価値について学習する。</p> <p>目標：社会福祉や社会保障とは何かについて理解する。</p> <p>授業内容</p> <p>第1回～第2回 社会保障制度と社会福祉</p> <p>第3回～第5回 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向</p> <p>第6回～第7回 医療保障</p> <p>第8回～第9回 介護保障</p> <p>第10回～第11回 所得保障</p> <p>第12回～第14回 社会福祉の分野とサービス</p>				
授業の進め方				
<p>法改正や政令・省令により、福祉に関連する制度は毎年変化する。また、福祉は保健医療との関連が強く、福祉単独では生活の問題が解決できないのが現状である。これらに加え、少子化・高齢化・経済的情勢の変化など社会的背景を踏まえながら、講義形式で各回の話を進める。</p>				
教科書				
<p>系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 医学書院</p>				
参考図書				
<p>「国民の福祉の動向と介護保険制度」厚生統計協会</p> <p>福祉臨床シリーズ編集委員会編「現代社会と福祉」（社会福祉士シリーズ4）弘文堂</p>				
評価方法				
<p>客観式テスト。</p>				

領域	専門基礎分野	単位（時間数）	1（15）
授業科目	医療関係法規	講義回数	7回＋テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期 後期 通年
担当講師	西 貴倫	講師所属	九州大学

<授業概要>

医療をとりまく状況が刻々と変化の中、看護師の資格や業務に関する法令も日々改められています。この授業のねらいは、そのような社会状況の変化をふまえた上で、看護師関係法規の要諦を押えることにあります。国家試験に向けて、看護師の資格や業務に関する法令について、正確な知識と理解を身につけましょう。

初回はガイダンスとして「医療と法律の関係」を、以降各回ごとに、「保健師助産師看護師法」、「医師法／医療法」、「薬機法／薬剤師法」、「社会保障法」、「健康福祉法」、「労働法その他の関係法規」をとりあげる予定です。

授業の進め方

毎回、授業内容についてまとめたレジメを配布して、それに解説を加えていきます。板書をするので、必ずノートやメモを取るように心がけてください。また、授業中に内容の確認として、過去問等の簡単な小テストを行います。

教科書

森山幹夫『（系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 [第52版]』医学書院 2021年2月刊。

参考図書

適宜、授業中に紹介します。

評価方法

終講時の試験によって評価します。

專 門 分 野 I

2年課程

領域	専門分野 I		単位 (時間数)	1 (26/30)
授業科目	基礎看護学VI		講義回数	12回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	久保田 多見子		講師所属	福岡看護専門学校
実務経験	JCHO九州病院、済生会病院(飯塚嘉穂、八幡総合) 看護師として勤務			

＜授業のねらい＞

看護は、あらゆる健康レベルにある対象の生命を守り、健康回復および維持を目的とする。
 対象の健康障害の要因をアセスメントし、各症状が生活行動や安寧の妨げになることを理解し、代表的な主要疾患を持つ患者の看護の方法を学んでほしい。さらに、健康障害を持つ患者の予防・軽減・解決に向けた看護活動を考え、健康状態に応じた日常生活援助の看護技術を習得してほしい。

＜授業目標＞

1. 健康障害を持つ対象を理解し、主症状・治療処置の状態に応じた複数の看護技術を適用できる。
2. 状況設定をもとに患者の状態を判断し、知識・技術を統合した看護援助を実施できる。
3. 個人学習とグループ学習を組み合わせ、主体的に学ぶことができる。

＜授業概要＞

- 第1回、第2回：(講義) 主要症状別看護(呼吸障害、循環障害、運動機能障害、疼痛)
 第3回：(講義) 疾患理解の看護学的視点を考える。「事例展開」
 第4回、第5回：(講義) 事例(大腿骨頸部骨折の患者)への援助を考える。
 第6回：(演習) 事例(大腿骨頸部骨折の患者)の陰部洗浄・オムツ交換
 第7回、第8回：(演習) 事例(大腿骨頸部骨折の患者)の状態観察・バイタルサイン測定・車椅子移乗・足浴
 第9回、第10回：(演習) 事例(大腿骨頸部骨折の患者)の洗髪
 第11回、第12回：(演習) 事例(大腿骨頸部骨折の患者)の全身清拭

授業の進め方

1. 教科書や適時配布する資料をもとに主要疾患について講義
2. 個人またはグループ学習・演習を行い、対象理解・援助過程・援助技術を学ぶ。
 - 1) 課題学習 2) 事例展開 3) 演習

教科書

- 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学④ 臨床看護学総論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院

参考図書

看護技術プラクティス 第3版 学研

評価方法

筆記試験(20点)と技術試験(80点)但し、課題提出がない場合は評価できないものとする。
 講義授業出席状況、授業態度で統合的に評価する。

領域	専門分野 I		単位(時間数)	1(4/30)
授業科目	基礎看護学VI		講義回数	2回
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	久保田 多見子		講師所属	福岡看護専門学校
実務経験	JCHO九州病院、済生会病院(飯塚嘉穂、八幡総合) 看護師として勤務			
<p><授業のねらい></p> <p>心肺機能停止はさまざまな原因によって生じる。その発生場所は病院内にとどまらず家庭、職場、学校、公共施設、輸送機関内、路上などあらゆるところである。こうした対象への一次救命処置(BLS)の中心となるものが心肺蘇生法である。</p> <p>適切な処置を迅速に行うことによって「避けられた死」を減少させ、1人でも多くの命を救うことができる。そのための知識と技術を修得していく。</p> <p><授業目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. BLSの流れとその根拠が理解できる。 2. AEDを安全に迅速に実施できる。 <p><授業概要></p> <p>第1回、第2回：講義、BLS演習</p>				
<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業を通して救急看護の特徴とその役割について理解する。 2. AHA2015ガイドラインに沿った、BLS(救急救命処置)を理解する。 3. DVDの手技と合わせながら練習(PWW)することで、正確なBLS技術を修得する。 4. 蘇生人形を用いて、全員が実施演習する。 				
<p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野II 基礎看護学③ 基礎看護学技術II 医学書院 2. BLS for Healthcare Providers DVD: AHA 3. AHA BLSヘルスケアプロバイダー: 岡田和夫 他監修 中山書店 4. AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン2015: 中山書店 				
<p>評価方法</p> <p>筆記試験なし</p> <p>BLSの基本的知識と技術を修得する。</p>				

專 門 分 野 Ⅱ

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（10／30）
授業科目	成人看護学Ⅱ（呼吸器障害をもつ患者の看護）		講義回数	4回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	柳田 和之		講師所属	福岡和白病院
<p><授業のねらい> 呼吸器疾患を持つ患者について理解でき、看護に活かせる。</p> <p><授業目標> 呼吸器疾患を持つ患者の看護について理解できる。</p> <p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器疾患をもつ患者の特徴と看護 2. 肺炎・自然気胸をもつ患者に対する看護援助 3. 慢性閉塞性肺疾患をもつ患者の看護 4. 肺がん患者の看護 5. 人工呼吸器装着中の看護 6. 胸腔ドレナージ施行中の患者の看護 				
<p>授業の進め方 教科書に沿って講義を進めていく。</p>				
<p>教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 医学書院</p>				
<p>参考図書</p>				
<p>評価方法 筆記試験、出欠状況および授業態度で総合的に評価する。 試験配点：30点／100点</p>				

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（10／30）
授業科目	成人看護学Ⅱ（循環器障害をもつ患者の看護）		講義回数	5回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	寺戸 勇介		講師所属	福岡和白病院
<p><授業のねらい></p> <p>循環器疾患患者は高齢社会や医療の進歩に伴い増加している。循環器系の障害を受けると生活習慣の改善や長期の療養が必要となることがあり、最悪の場合には生命危機に陥る。</p> <p>このような循環器疾患の特徴を踏まえ、循環器疾患が患者に与える影響とその看護について修得する。また、事例から多職種連携を含めた具体的な介入を見出していく。</p> <p><授業目標></p> <p>循環器疾患を持つ患者の看護について理解できる。</p> <p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器疾患の動向・症状・徴候 2. 循環器疾患の検査 3. 循環器疾患治療を受ける患者の看護 4. 循環器疾患看護 <p>虚血性心疾患 不整脈 心不全</p>				
<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書をベースに資料やパワーポイントを作成し、進めていく。 ・グループワーク 				
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 医学書院</p>				
<p>参考図書</p> <p>循環器疾患 ビジュアルブック</p> <p>術式別の術後ケア（心臓血管外科）</p> <p>心臓血管外科エキスパートナーシング</p>				
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、グループワークや授業態度を総合的に評価する。</p> <p>試験配点：40点／100点</p>				

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（10／30）
授業科目	成人看護学Ⅱ（脳神経障害をもつ患者の看護）		講義回数	5回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	宮崎 アトム		講師所属	福岡和白病院
<p><授業のねらい> 脳神経疾患を持つ患者について理解でき、看護に活かせる。</p> <p><授業目標> 脳神経疾患を持つ患者の看護について理解できる。</p> <p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 症状および障害に対する看護 2. 内科的治療を受ける患者の看護 3. 外科的治療を受ける患者の看護 4. 事例による症例別看護 				
<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書を中心に講義を進める。 2. 臨床の場での患者の症例を挙げながら進める。 				
<p>教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院</p>				
<p>参考図書</p>				
<p>評価方法 筆記試験。 試験配点：30点／100点</p>				

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（8／30）
授業科目	成人看護学Ⅲ（内分泌障害をもつ患者の看護）		講義回数	4回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	吉丸 愛		講師所属	福岡和白病院
<p><授業のねらい> 内分泌疾患を持つ患者について理解でき、看護に活かせる。</p> <p><授業目標> 内分泌疾患を持つ患者の看護について理解できる。</p> <p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌疾患患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 甲状腺疾患患者の看護 2) 甲状腺切除術を受ける患者の術前・術後の看護 3) 副腎疾患患者の看護 2. 代謝疾患患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活習慣病としての視点から糖尿病を中心に、生活指導・自己管理方法についての看護 2) 糖尿病の合併症についての看護 3) インスリン自己注射の指導への援助方法 				
<p>授業の進め方 教科書に沿って授業を進めていく。</p>				
<p>教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院</p>				
<p>参考図書</p>				
<p>評価方法 筆記試験、出欠状況および授業態度を総合的に評価する。 試験配点：30点／100点</p>				

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（12／30）
授業科目	成人看護学Ⅲ（腎泌尿器障害をもつ患者の看護）		講義回数	5回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	宇野恵里華・小濱鈴代		講師所属	福岡和白病院
<p><授業のねらい> 腎泌尿器疾患を持つ患者について理解でき、看護に活かせる。</p> <p><授業目標> 腎泌尿器の構造と機能、病態生理で学んだ知識を基に、疾患・症状に対する看護や検査・処置を受ける患者の看護について学ぶ。 腎泌尿器疾患でおこる各症状への対応や援助、合併症を予防するための知識を学び、検査・処置の目的や方法、合併症を理解し患者が安全安楽に受けることができるための知識と援助を学ぶ。</p> <p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎不全患者の看護、腎生検を受ける患者の看護、透析を受ける患者の看護、症状別看護 2. 前立腺肥大症患者の看護、経尿道的前立腺切除術を受ける患者の看護 3. 膀胱腫瘍患者の看護、経尿道的膀胱腫瘍切除術を受ける患者の看護 尿路変更術を受ける患者の看護 4. 糸球体疾患患者の看護 				
<p>授業の進め方 教科書、参考資料、講義資料を使用し講義を進める。</p>				
<p>教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院</p>				
<p>参考図書</p>				
<p>評価方法 終講時試験をもって評価する。 試験配点：40点／100点</p>				

領域	専門分野Ⅱ	単位（時間数）	1（2／30）
授業科目	成人看護学Ⅲ（膠原病患者の看護）	講義回数	1回
開講年次	2年次	開講時期	前期 後期 通年
担当講師	竹内 穂波	講師所属	国立病院機構 九州医療センター
<p><授業のねらい> 膠原病疾患を持つ患者について理解でき、看護に活かせる。</p> <p><授業目標> 膠原病疾患を持つ患者の看護について理解できる。</p> <p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要疾患の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) RA 2) SLE 2. ステロイド療法について 			
<p>授業の進め方 教科書に沿って進める。</p>			
<p>教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ アレルギー・膠原病・感染症 医学書院</p>			
<p>参考図書</p>			
<p>評価方法</p>			

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（8／30）
授業科目	成人看護学Ⅲ（運動器障害をもつ患者の看護）		講義回数	4回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	岩石 美姫		講師所属	福岡和白病院
<p><授業のねらい> 運動器疾患を持つ患者について理解でき、看護に活かせる。</p> <p><授業目標> 運動器疾患を持つ患者の看護について理解できる。</p> <p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器疾患を持つ患者の身体的・精神的・社会的問題について 2. 疾患を持つ患者の看護と病態 				
<p>授業の進め方 講義、演習</p>				
<p>教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 医学書院</p>				
<p>参考図書</p>				
<p>評価方法 筆記試験、出欠状況および授業態度で総合的に評価する。 試験配点：30点／100点</p>				

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（14／30）
授業科目	成人看護学Ⅳ（消化器障害をもつ患者の看護）		講義回数	6回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	櫻井 亜衣		講師所属	福岡和白病院
<p><授業のねらい> 消化器疾患を持つ患者について理解でき、看護に活かせる。</p> <p><授業目標> 消化器の構造と機能、検査、疾患で学んだ知識をもとに、症状に対する看護および検査や治療・処置を受ける患者の看護の知識と技術を学ぶ。 成人の健康を脅かしている生活習慣病や機能障害を抱えて生活する人への健康教育や患者教育について理解する。 セルフケアの促進、障害と共に生きていく患者の理解、社会復帰に向けてのリハビリテーション、保健医療福祉の連携、社会資源の活用などを理解する。</p> <p><授業概要> 症状に対する看護：嚥下困難、食欲不振、おくび・胸やけ、体重減少、吐きけ、嘔吐、腹痛、吐血・下血、下痢、便秘、腹部膨満、黄疸、肝性脳症 検査をうける患者の看護：造影検査、内視鏡検査、肝生検、肝シンチグラフィ、超音波検査 治療・処置をうける患者の看護：薬物療法、食事療法、手術療法、胃瘻・空腸瘻造設、化学療法、放射線療法 疾患をもつ患者の看護：食道疾患患者、胃・十二指腸疾患患者、腸・腹膜疾患患者、肝臓・胆のう疾患患者、膵臓疾患患者</p>				
<p>授業の進め方 教科書・資料を使用し、講義を進める。</p>				
<p>教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 医学書院</p>				
<p>参考図書</p>				
<p>評価方法 終講時試験、授業参加度にて総合的に評価する。 試験配点：50点／100点</p>				

2年課程

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（4/30）
授業科目	成人看護学Ⅳ（血液・造血器障害をもつ患者の看護）		講義回数	2回
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	川崎 彩香		講師所属	国立病院機構 九州がんセンター
<授業目標>				
<ol style="list-style-type: none"> 血液・造血器疾患患者の主要症状とその看護の実際を理解する。 治療方針決定までの検査と治療のプロセスにおける検査を理解する。 白血病の看護を各期に分けて理解する。 悪性リンパ腫の看護を各期に分けて理解する。 造血器腫瘍患者に行われる化学療法・放射線療法・造血幹細胞移植における看護を理解する。 				
<授業概要>				
<ol style="list-style-type: none"> 主要症状を有する患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 貧血のある患者の看護 出血傾向のある患者の看護 白血球減少のある患者の看護 検査を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 白血病・悪性リンパ腫患者の検査 主要な検査と看護 造血器腫瘍患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 白血病患者の看護 悪性リンパ腫患者の看護 造血器腫瘍患者の意思決定支援 がん薬物療法と看護 放射線療法と看護 造血幹細胞移植を受ける患者の看護 				
授業の進め方				
<ol style="list-style-type: none"> 授業の始めに、「血液の成分と機能」や「1回目の授業」について振り返るために、質問する。 教科書を中心に講義を進める。 1回目の授業終了時に、質問や感想を確認し、2回目の授業に生かす。 				
教科書				
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院				
参考図書				
<ul style="list-style-type: none"> ・みるみるナットク血液疾患 文光堂 ・血液・造血器疾患エキスパートナーシング 南江堂 ・医師と看護師のための造血幹細胞移植 医薬ジャーナル社 ・造血幹細胞移植の看護 南江堂 				
評価方法				

2年課程

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（12／30）
授業科目	成人看護学Ⅳ（女性生殖器障害をもつ患者の看護）		講義回数	6回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	安武 夕子		講師所属	福岡看護専門学校
実務経験	渡辺産婦人科・青葉レディースクリニック・福岡こども病院（産科）に看護師として勤務			
<授業のねらい>				
<p>女性生殖器の解剖に基づき、女性生殖器疾患や患者の特性を踏まえた看護の展開について理解することをねらいとする。女性生殖器疾患の診察は非常に羞恥心の強いものであり、問診でもプライバシー性の高い内容についても聞かなければならない事が多い。授業では、診察・検査・治療の特殊性を知り、患者の心理状態を考慮することで、精神的負担を緩和するための援助方法や看護師の役割についても学ぶ機会としたい。また、子宮や乳房の手術では、妊孕性の可否、女性性の喪失感やボディイメージの変化などの問題が生じて来る。そのため、身体的な援助と共に女性の特徴をとらえた心理的援助の必要性について理解する。</p>				
<授業目標>				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性生殖器疾患と患者の特性を理解できる。 2. 女性生殖器疾患患者の身体的・心理的援助について理解する。 				
<授業概要>				
<p>第1回 女性生殖器疾患患者の特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 女性生殖器患者の理解 2) 発育過程における女性生殖器の発達と疾患 <p>第2回 診療介助における看護</p> <p>第3回 症状とその病態に対する看護</p> <p>第4回 疾患の看護：子宮筋腫患者の看護</p> <p>第5回 疾患の看護：子宮がん患者の看護</p> <p>第6回 疾患の看護：乳がん患者の看護</p>				
授業の進め方				
教科書と配布資料を用いて授業を進行する。				
教科書				
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院				
参考図書				
評価方法				
<p>終講時試験、課題レポート、授業態度で総合的に評価する。</p> <p>試験配点：50点／100点</p>				

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（30）
授業科目	老年看護学Ⅱ		講義回数	14回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	和田 聖美		講師所属	福岡看護専門学校
実務経験	北里大学病院・東医療センター・福岡和白病院 看護師として勤務			

<授業のねらい>

老年看護学Ⅱでは、器官系統別の加齢変化のありようが高齢者に特徴的な疾患や身体症状を提示し、それぞれのアセスメントの方法や看護を学ぶ機会とする。また座る・立つという基本動作を基盤とする食事・排泄・清潔といった生活行為とそれらが繰り返し展開される生活リズム、更には生活を円滑に進めるために不可欠なコミュニケーションについて援助技術を習得して欲しい。

<授業目標>

1. 器官系統別に、老化による形態機能の変化とアセスメントの方法が理解できる。
2. 高齢者によくみられる身体症状について、臨床的特徴とアセスメントの方法、看護ケアが理解できる。
3. 基本動作と環境のアセスメントを学び援助の方法を考えることができる。
4. 高齢者の機能を最大限に活かし、安全かつ快適な食事援助の方法を学ぶことができる。
5. 高齢者が障害や疾患、加齢変化に関連した排泄障害を生じることを理解し、排泄援助の方法を学ぶことができる。
6. 高齢者の清潔習慣や清潔への価値観を理解し、皮膚障害の積極的な予防と安全に考慮した清潔のニーズを充足する看護の方法を学ぶことができる。
7. 生活リズムと高齢者の健康が相互に関連していることを理解し、睡眠と覚醒の変化および食事・排泄・社会的な活動・趣味や娯楽活動などの生活行動の変化について学ぶことができる。
8. 加齢による感覚機能の低下や認知機能の低下、健康障害がコミュニケーションを阻む要因になることを理解する。コミュニケーションに不具合を生じた高齢者が基本的欲求を相手に十分に伝えられないことにより、不安感や喪失感、怒りや不満を生じることを理解し、コミュニケーションの手段について学ぶことができる。

<授業概要>

第1回目：生活を支える看護①

第2～4回目：認知症・うつ病・せん妄の看護①～③

第5～12回目：高齢者の生活を支える看護①～⑧

第13～14回目：生活を支える看護②③

授業の進め方

テキストや視聴覚教材を用いて講義・グループワークを進める。

「高齢者の生活を支える看護」では実技演習を行う。

教科書

ナーシング・グラフィカ 高齢者の健康と障害 メディカ出版

ナーシング・グラフィカ 高齢者看護の実践 メディカ出版

参考図書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

評価方法

終講時試験、課題レポート、グループワーク時の参加度、授業態度、出席状況で総合的に評価する。

2年課程

領域	専門分野Ⅱ	単位(時間数)	1(16/30)
授業科目	老年看護学Ⅲ	講義回数	7回+テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期 後期 通年
担当講師	萩尾 奈津子	講師所属	福岡看護専門学校
実務経験	社会医療法人愛仁会高槻病院、社会医療法人財団池友会新行橋病院で看護師として勤務		
<p><授業のねらい> 老年期の疾患や障害は長期に亘り日常生活に大きな影響を与えやすい。そのため丁寧な観察と情報収集を行い全人的な看護を提供する必要がある。 老年期のアセスメントのポイントを理解し、急性期、回復期、終末期について個々の対象の状態や能力に応じた援助方法を学ぶ。</p> <p><授業目標> 1. 治療を受ける高齢者の看護について理解することができる。 2. 終末期の看護について理解することができる。</p> <p><授業概要> 1回目 薬物療法、手術療法、検査療法、リハビリテーション療法 ① 2回目 薬物療法、手術療法、検査療法、リハビリテーション療法 ② 3回目 グループ発表 4回目 終末期の看護 ① 5回目 終末期の看護 ② 6・7回目 DVD鑑賞</p>			
<p>授業の進め方 教科書・資料・DVDを使用して講義・グループワークを進める。</p>			
<p>教科書 ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版</p> <p>参考図書 老年看護学 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版</p>			
<p>評価方法 50/100点満点 グループワーク：6点 ※グループワーク(3点)・発表日(3点)の参加がないと減点対象とする。 レポート課題：10点 終講時試験：34点</p>			

2年課程

領域	専門分野Ⅱ	単位（時間数）	1（14／30）
授業科目	老年看護学Ⅲ	講義回数	7回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期 後期 通年
担当講師	今古賀 和子	講師所属	宗像医師会在宅医療連携拠点事業室

＜授業のねらい＞

この科目では、「高齢者が疾病や障害をもっていても、要介護状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生最後まで続けられるよう」地域での体制や制度を通して、地域包括ケアの視点を中心に学ぶ。

そのため授業では、高齢者を取り巻く環境や制度的支援の現状や背景をデータで示しながら、地域包括ケアにおける構成要素と課題を重点に、説明する。理解を深められるように、事例を紹介しながら、日常生活から療養の場への移行、療養生活を送る介護保険施設や医療施設を通して、高齢者を巡る制度や政策における現状を紹介し、さまざまな場で働く看護師の役割と期待についても考える。

実践例においては、地域の社会資源の提示、医療・介護を含む総合的支援のための多職種連携や協働の実際、高齢者自身の持てる力を活用しての地域ネットワークづくりなどの取り組みを紹介。

介護する家族の持つ体験事例を紹介しながら、地域包括ケアの理念を共有できるように、地域包括ケア実現の構図を示す。

＜授業目標＞

1. 地域包括ケアシステムの構成要素「住まい、医療、介護、予防、生活支援」と取り組みの課題である5つの視点が理解でき、地域包括ケアシステムのイメージができる。
2. 療養の場への移行支援、高齢者の意思決定支援に関わる場面、長期療養施設の特徴や看護師の役割が理解できる。

＜授業概要＞

1. 高齢者を取り巻く環境や背景、地域包括ケアに向けた取り組みやプロセスの具体例を示す。
2. 高齢者が望む場所での生活や療養支援、介護保険等におけるサービスの中身等を示す。

授業の進め方

教科書や配布資料を用いて講義をする。地域で暮らす高齢者の現状、地域の社会資源の例
高齢者支援のための介護保険制度等を利用したさまざまなサービスのあり方
振り返りテストで、知識の習得状況を把握し、授業を展開する。

教科書 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① ② メディカ出版

参考図書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学第8版 医学書院
国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会 地域連携：日総研 等
退院支援・退院調整の実践事例 日本看護協会出版 地域包括ケアサクセスガイド MCメディカ出版

評価方法

終講時試験、授業態度（参加・出席状況）、振り返りテスト等を踏まえて総合的に評価する。

試験配点：50点／100点

2年課程

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（14／30）
授業科目	小児看護学Ⅱ		講義回数	7回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	宮崎 澄雄		講師所属	福岡和白リハビリテーション学院

＜授業概要＞

小児の代表的な疾患の病態と治療

1. 第1回 第1章：先天異常 第3章：代謝疾患 第4章：内分泌疾患
2. 第2回 第5章：免疫・アレルギー・リウマチ性疾患 第6章：感染症疾患
3. 第3回 第7章：呼吸器疾患
4. 第4回 第8章：循環器疾患
5. 第5回 第9章：消化器疾患 第10章：血液・造血器疾患
6. 第6回 第11章：悪性新生物 第12章：腎・泌尿器疾患
7. 第7回 第13章：神経疾患 第14章：運動器疾患 第18章：精神疾患（発達障害）
第19章：事故外傷

授業の進め方

下記の教科書に沿って、ホワイトボードを使って講義します。

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院

参考図書

評価方法

講義終了後の定期試験と出席状況で評価します。

試験配点：50点／100点

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（16／30）
授業科目	小児看護学Ⅱ		講義回数	7回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	藤野 千加子		講師所属	
<p><授業のねらい> 病気・障害を持つ子どもと家族の看護について学習し、アセスメントに必要な知識、技術および検査や処置などの援助の方法を学習する。</p> <p><授業目標> 病気・障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と、状況に応じた看護を理解できる。 検査や処置が子どもに及ぼす影響を理解し、発達段階に応じた介助、技術を理解できる。</p> <p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 2. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 3. 子どもにおける疾病の経過と看護 4. 子どものアセスメント 5. 検査・処置を受ける子どもの看護 6. 障害のある子どもと家族の看護 7. 子どもの虐待と看護 				
<p>授業の進め方 教科書と資料を用いての講義</p>				
<p>教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院</p>				
<p>参考図書 新体系看護全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 メジカルフレンド社</p>				
<p>評価方法 筆記試験 出席状況により学習者の到達度を評価 （50点／100点）</p>				

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（30）
授業科目	母性看護学Ⅱ		講義回数	14回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	上川 靖子		講師所属	福岡和白病院

<授業のねらい>

正常な妊娠・分娩・産褥期における母児の生理的変化を理解し、周産期に特有な母性の心理・社会的特性を理解する。また、新生児の子宮外生活への適応に向けての看護について学ぶ。

<授業概要>

1. 妊娠期における母児の生理的変化、心理的・社会的特性、妊婦と家族への保健指導
2. 分娩期における母児の生理的変化、心理的・社会的特性、経過に応じた産婦と家族への看護
3. 産褥期における生理的変化、心理的・社会的特性、経過に応じた褥婦と家族への看護
4. 新生児の生理的変化、出生直後から退院時までの看護

授業の進め方

1. 教科書と配布資料を中心に、DVDを使用し講義を進める。
2. 妊婦、産婦、褥婦、新生児に必要な援助技術の演習を実施する。

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院

参考図書

看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術 メヂカルフレンド社
 マタニティ診断ガイドブック 医学書院
 日本助産診断実践研究会

評価方法

筆記試験、出席状況により総合的に評価する。

2年課程

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（30）
授業科目	母性看護学Ⅲ		講義回数	14回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	上川 靖子		講師所属	福岡和白病院
<p><授業のねらい></p> <p>母性看護学Ⅱをもとに、妊娠・分娩・産褥期に対象および胎児、新生児に生じる変化を理解しハイリスクな状態にある対象と家族の援助の実際について学習する。</p> <p>授業では周産期に予測される正常逸脱状態の基礎知識を学び、対象と胎児および新生児に対する援助の実際を理解する。また、母性機能の健全な発達や母児の安全を守る看護援助を理解することをねらいとする。</p> <p>ヘルスプロモーションの考え方を基盤とした母性看護過程の展開を行い、対象に応じた看護援助を行うための思考を養う機会としたい。</p> <p><授業の目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の健康逸脱状態の基礎知識と援助の実際が理解できる。 2. 分娩期の正常逸脱状態の基礎知識と援助の実際が理解できる。 3. 産褥期の健康逸脱状態の基礎知識と援助の実際が理解できる。 4. 新生児の正常逸脱状態の基礎知識と援助の実際が理解できる。 5. 母性看護過程を学び対象に応じた看護援助を行うための思考を養う。 <p><授業概要></p> <p>ハイリスク妊婦・産婦・褥婦の看護、ハイリスク新生児の看護事例による母性看護過程の展開</p> <p>授業の進め方</p> <p>教科書、参考図書、資料を用いて授業をすすめる。 事例を用いて、母性看護過程の展開演習を行う。</p> <p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院</p> <p>参考図書</p> <p>看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術 メヂカルフレンド社 マタニティ診断ガイドブック 医学書院 ウェルネス看護診断にもとづく 母性看護過程 医歯薬出版</p> <p>評価方法</p> <p>課題レポート、終講時試験、授業参加度にて総合的に評価する。</p>				

2年課程

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（14/30）
授業科目	精神看護学Ⅱ		講義回数	7回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	早渕 雅樹		講師所属	香椎療養所
<p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症 2. 躁うつ病 3. 神経症 4. 摂食障害・睡眠障害 5. 物質関連障害 6. 認知症 7. せん妄 8. 器質性精神病・精神遅滞 9. 小児期の精神疾患 10. 人格障害 11. てんかん 12. 精神保健福祉法 				
<p>授業の進め方</p> <p>主に配布プリントの内容に沿って、一部教科書に沿って講義を行う。</p>				
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院</p>				
<p>参考図書</p> <p>精神科治療の覚書 日本評論社 DSM-Ⅴ 精神疾患の分類と手引き 医学書院</p>				
<p>評価方法</p> <p>試験は講義した内容に即して出題する（筆記試験）。</p> <p>試験配点：50点／100点</p>				

領域	専門分野Ⅱ	単位（時間数）	1（16／30）
授業科目	精神看護学Ⅱ	講義回数	7回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期 後期 通年
担当講師	高口 博史	講師所属	福岡看護専門学校
実務経験	医療法人恵愛会福岡病院、他において看護師として勤務		
<p><授業のねらい></p> <p>ケアの核となる人間関係について、他者理解・自己理解を深めていく機会にする。</p> <p>患者と看護師の関係における感情体験を共有し、感情や受容とはについて学ぶ。</p> <p>人としての尊厳を尊重しつつ患者のペースやパーソナルスペースを知り、守ることの意味を考え、看護師としての行動を学ぶ。</p> <p>患者と関わる中で生じた自分の印象や気持ちの動きを知り、相手の感情や思考に伴う問題把握やその時の感情に焦点をあて、関係を考察するためのプロセスレコードの方法を学ばせたい。</p> <p><授業目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学における人間理解について理解することができる。 2. 患者-看護師関係は相互的であり、関係構築の上で自己理解・他者理解が必要なことを理解できる。 3. 患者-看護師関係を理解する方法としてのプロセスレコードの書き方と用い方を理解しその活用方法を学ぶことができる。 <p><授業概要></p> <p>第1回：精神看護ケアの意味・原則を学ぶ</p> <p>第2回：人間関係構築に必要な方法を学ぶ</p> <p>第3回：プロセスレコードの目的・方法を学ぶ</p> <p>第4回：プロセスレコード記載</p> <p>第5回：プロセスレコード検討会（グループワーク）</p> <p>第6回：患者-看護師間の感情体験、対応の難しい場面を考える</p> <p>第7回：医療の場のダイナミクスについて考える</p>			
<p>授業の進め方</p> <p>教科書と資料を用いての講義。個人ワーク・グループワーク。</p>			
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院</p>			
<p>参考図書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院</p> <p>ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版</p> <p>看護学テキストNICE 精神看護学 こころ・からだ・かかわりのプラクティス 南江堂</p>			
<p>評価方法</p> <p>授業参加態度、試験を総合的に評価する（50/100点）</p>			

2年課程

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（10／30）
授業科目	精神看護学Ⅲ		講義回数	5回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	木本 智士		講師所属	疋田病院

<授業概要>

1. 入院治療と看護の展開
 - 1) 入院の意味を理解する
 - 2) 治療的環境をつくる
 - 3) 安全を守る
 - 4) 緊急事態に対処する
 - 5) 回復を助ける

授業の進め方

教科書を中心に補足資料などを使用する

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院

参考図書

評価方法

授業終了時の筆記試験。
試験配点：30点／100点

領域	専門分野Ⅱ		単位（時間数）	1（20／30）
授業科目	精神看護学Ⅲ		講義回数	9回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	川上 みゆき		講師所属	
<授業概要>				
<p>精神看護学Ⅲの内容</p> <p>第11章 身体をケアする</p> <p>第12章 サバイバーとしての患者とそのケア</p> <p>第13章 地域における精神保健と精神看護</p> <p>第14章 リエゾン看護</p> <p>終章 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス</p>				
授業の進め方				
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント及びDVDを使用、教科書に沿って進める。 				
教科書				
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院				
参考図書				
評価方法				
客観的テストにて評価 試験配点：70点／100点				

統合分野

2年課程

領域	統合分野	単位（時間数）	1（30）
授業科目	在宅看護論Ⅱ	講義回数	14回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 前期 後期 通年 </div>
担当講師	黒木 忍・鎌田 聡史 山村ひと美	講師所属	あおぞらの里 古賀訪問看護ステーション 福岡看護専門学校
実務経験	社会医療法人財団 白十字会 白十字病院 看護師として勤務 (株) シダー あおぞらの里 和白訪問看護ステーション 看護師として勤務		

＜授業のねらい＞

在宅看護論Ⅱでは、在宅における日常生活援助技術、医療処置を伴う生活行動支援技術、安全と健康危機管理について学ぶための科目である。

食事・清潔・排泄といった日常生活行動は、これまで長い間の習慣として自分自身で行ってきたことであり、その療養者および家族のやり方やこだわりがあり、尊重した関わりが重要である。また移動や排泄などは1日に何度も繰り返される。そのため療養者・家族にとって、日常生活援助がどれだけの負担があるのか、より快適に過ごすための支援について考えることが在宅療養の継続には重要である。

在宅ケアを専門的な視点から学び、療養者および家族の生活背景や価値観を尊重する視点での観察力、予防的な視点でのアセスメント力を養い、援助技術を身につけることをねらいとする。

そのため授業では、在宅看護論Ⅰで学んだ在宅看護における基本的な考えと、専門分野Ⅰで学んだ基礎看護技術を基に、在宅看護の特徴を反映させた日常生活援助技術や医療処置を伴う生活行動支援について、危機管理の原則と基本を理解し、感染防止や事故防止の視点を踏まえながら演習を取り入れて学習する。

＜授業目標＞

在宅療養の場におけるリスクの特徴を学び、在宅看護における危機管理の原則と基本を理解することができる。

2. 在宅における食事・排泄・清潔のアセスメントと援助技術の基本を学び、実践に活かすことができる。
3. 在宅における日常生活動作のアセスメントと演習を通して安全な移動援助技術を理解し、実践に活かすことができる。
4. 在宅における呼吸のアセスメント、演習を通して排痰法の実際を学び、安全・安楽な呼吸の援助方法を理解することができる。
5. 外来通院における化学療法や放射線療法の概要と療養者へのセルフケア支援について学び、理解することができる。
6. 在宅における酸素療法・人工呼吸療法などの援助の実際を学び、安全な医療機器管理について理解することができる。
7. 在宅における褥瘡ケア・服薬管理の実際について理解することができる。

＜授業概要＞

第1回 在宅看護における安全と健康危機管理①	第7回 呼吸の援助①	第13回 移動の援助
第2回 在宅看護における安全と健康危機管理②	第8回 医療的ケアの援助技術②	第14回 呼吸の援助③
第3回 生活ケアの援助技術：食	第9回 呼吸の援助②	
第4回 生活ケアの援助技術：清潔	第10回 生活ケアの援助技術：排泄②	
第5回 生活ケアの援助技術：排泄①	第11回 在宅でのリハビリテーション	
第6回 医療的ケアの援助技術①	第12回 服薬管理	

授業の進め方

教科書、資料などを使用し、講義・グループワークを進める。看護・在宅実習室を利用して演習を行う。

教科書

ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版

参考図書

ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 地域療養を支える技術 メディカ出版
 写真でわかる訪問看護 改訂第2版 訪問看護の世界を写真で学ぶ！ インターメディカ
 パーフェクト臨床実習ガイド 在宅看護実習ガイド 照林社
 場面でまなぶ 在宅看護論 メディカ出版
 実践・訪問看護シリーズ（4巻） インターメディカ 前聖路加病院訪問看護ステーション 押川真喜子

評価方法

終講時試験、授業への参加度・態度をもって総合的に評価する。

試験配点：100点

領域	統合分野	単位（時間数）	1（26／30）
授業科目	在宅看護論Ⅲ	講義回数	12回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期 後期 通年
担当講師	山本 真由美	講師所属	福岡看護専門学校
実務経験	佐賀大学医学部附属病院・福岡青洲会病院で看護師として勤務 なごみ訪問看護サービスで看護師・居宅介護支援専門員として勤務		

<授業のねらい>

在宅看護では在宅で療養する人々に対して居宅に出向き生活の質（QOL）の維持向上を目指して看護活動を展開する。対象への看護活動のプロセスや看護の原理原則は共通している。そのうえで在宅看護においては、看護の対象である本人および家族の意向を尊重し生活の場で看護を展開する。それらの特徴を踏まえ重視する姿勢が求められている。

そのため授業では、在宅看護論Ⅰで学んだ在宅看護の考え方、制度、看護過程の特徴や在宅看護論Ⅱで学んだ在宅における看護技術の実際などの知識を活かして、在宅における看護活動の展開方法の実際を学ぶ。また多様な状況の中で生活する療養者が住み慣れた家で家族と過ごし、その人らしく有意義に生き抜くための看護師の役割と機能について考える機会としたい。

<授業目標>

1. さまざまな事例や場面における療養者とその家族が望む生活とは何かをとらえ、看護師の役割と機能について考えることができる。
2. さまざまな事例や場面における看護活動について考えることができる。
3. 訪問看護における看護過程の実際について理解することができる。
4. 訪問看護における必要な記録の実際について理解することができる。

<授業概要>

第1回：在宅療養における看護過程の特徴、在宅看護におけるアセスメントの実際

第2回～第11回：さまざまな事例に対する看護展開（7事例の看護展開について考える）

第12回：在宅看護論実習に向けて、まとめ

授業の進め方

授業は一斉講義、グループワーク、発表、課題レポートなど取り入れながら進めていく。

記録の実際では在宅看護論実習の記録用紙を用いて理解を深めていく。

教科書

ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版

参考図書

新版在宅看護論 医歯薬出版

家族看護学を基盤とした在宅看護論Ⅰ 概論編 日本看護協会出版会

系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院

ジーサブリ 理論・実践統合学習 在宅看護論 改訂2版 メディカ出版

在宅看護論 実習ガイド 照林社

NANDA-I 看護診断 医学書院

他、授業内で紹介する。

評価方法

終講時試験、課題レポート、グループワーク・発表等への参加状況、授業態度（出席状況）等を踏まえて総合的に評価する。

領域	統合分野		単位(時間数)	1(4/30)
授業科目	在宅看護論Ⅲ		講義回数	2回
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	野崎 仁美		講師所属	在宅看護センター ReirChihaya
<p><授業のねらい></p> <p>人間の終末期は、様々な視点から学ぶ機会が多い。終末期における患者とその患者を取り巻く周囲の理解を深め、これから日本が目指す医療体制も考慮しながら在宅での療養を支える看護師の機能と役割を考える機会としたい。</p> <p><授業目標></p> <p>在宅での終末期看護の事例を活用しながら医療職としての倫理検討や死生観を考える。</p> <p><授業概要></p> <p>在宅看護過程の特徴 情報収集とアセスメント</p>				
<p>授業の進め方</p> <p>教科書と配布資料を用い講義・グループワーク</p>				
<p>教科書</p> <p>ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア</p>				
<p>参考図書</p>				
<p>評価方法</p>				

2年課程

領域	統合分野		単位（時間数）	1（9／15）
授業科目	看護管理		講義回数	4回＋テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	久保石 佳子		講師所属	香椎丘リハビリテーション病院
<p><授業のねらい></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織に属しチームで働く看護師として、また地域包括ケアシステムにおける多職種との連携の中で必要となるマネジメントについての基礎知識を獲得する。 2. 看護管理の目的を理解し、看護におけるマネジメントに必要な知識を学ぶ。 3. 看護師として求められる専門職としてのキャリアマネジメントに必要な知識を学ぶ。 <p><授業概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントにおける知識 ・看護におけるマネジメント 看護ケアのマネジメント・看護サービスのマネジメント ・キャリアマネジメント 				
<p>授業の進め方</p> <p>教科書を中心とした講義形式</p>				
<p>教科書</p> <p>上泉 和子他著：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理 医学書院</p>				
<p>参考図書</p> <p>日本看護協会看護業務基準 看護管理テキスト 看護白書</p>				
<p>評価方法</p> <p>筆記試験（60点／100点）</p>				

2年課程

領域	統合分野		単位（時間数）	1（6／15）
授業科目	看護管理		講義回数	3回＋テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	廣田 和人	講師所属	東京品川病院	

<授業のねらい>

看護管理の学習を通して看護を仕組みとして捉え、現状把握をして看護管理上の課題を特定し、組織としてどのように取り組めばより質の高い看護を提供できるか追究・評価するための基盤となる知識・技術を学ぶ。

「マネジメントに必要な知識・技術」の学習を通して、看護管理の基盤となる理論とその変遷、看護マネジメントの展開に必要な知識を習得する。また、「看護を取り巻く諸制度」の学習を通して、看護の定義を確認、看護職に関連する制度を理解する。これらを通して、質の高い看護・医療の提供に向けた看護管理の意義と重要性、今日的課題について考察する。

<授業概要>

1. マネジメントに必要な知識と技術
 - 1) マネジメント
 - 2) 組織
 - 3) リーダーシップ
 - 4) 組織の調整
2. 看護を取り巻く諸制度
 - 1) 看護の定義
 - 2) 看護職と諸制度
 - 3) 医療制度
 - 4) 看護政策と制度

授業の進め方

講義形式 教科書・配布資料に基づいて進めます。

教科書

上泉和子 他：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理 医学書院

参考図書

なし

評価方法

出席率（受講態度含む）、筆記試験（40点／100点）

領域	統合分野		単位（時間数）	1（9／15）
授業科目	災害看護・国際看護（災害看護）		講義回数	4回＋テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	酒井 康江		講師所属	福岡女学院看護大学

<授業のねらい>

災害看護に関する看護実践能力は、他の専門分野で学ぶ看護の基礎知識を活用し、災害時に自ら考え応用することが求められる。そのため、災害サイクルに応じた看護や対象別の看護を既習知識を想起しながら更に発展していく必要がある。災害が人間や社会にもたらす影響を理解し、災害発生時に必要な看護活動が行えるような基礎的能力を養う。

<授業概要>

1. 災害看護の定義、災害の種類、災害と法
2. 災害サイクルに応じた看護
3. 災害時の対象別看護
4. 災害とこころのケア、救援者のストレス
5. 災害への備え

授業の進め方

1. 教科書および配布資料・パワーポイント・動画を用いて講義を進める。
2. 講義、演習をもとに個人レポートを作成する。

教科書

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院

参考図書

災害看護 心得ておきたい基本的な知識 南山堂
 ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版
 事例を通して学ぶ避難所・仮設住宅の看護ケア 日本看護協会出版会

評価方法

終講時試験、課題レポート、授業への参加態度によって総合的に評価する。
 試験配点：50点／100点

領域	統合分野		単位（時間数）	1（6/15）
授業科目	災害看護・国際看護（国際看護）		講義回数	3回＋テスト
開講年次	3年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	酒井 康江		講師所属	福岡女学院看護大学

<授業概要>

保健医療分野における国際協力の仕組みや歴史を理解し、世界的な健康課題とそのアプローチに向けた取り組みについて学ぶ。また、文化や風習の異なる人々への看護の実際を知り、異文化理解を深めるとともに国内外を問わず日本の看護が世界に必要とされている背景を知る。

1. 国際看護学とは（国際保健/国際協力の歴史と変遷、国際看護の課題と展望など）
2. 国際看護に関する重要ワードとその理解（国連やWHO、PHC、ヘルスプロモーションなど）
3. 国際協力に関する機関や団体（ODA、JICA、UN、WHO、NGO、赤十字社など）
4. 国際看護活動の実際
5. 異文化体験演習

授業の進め方

1. 教科書、配布資料、パワーポイント、動画を用いて講義を進める。
2. 講義、演習をもとに個人レポートを作成する。

教科書

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院

参考図書

新体系看護学全書 統合分野 看護の統合と実践③ 国際看護学 メヂカルフレンド社
構成の指標 増刊 国民衛生の動向 厚生労働統計協会

評価方法

終講時試験、課題レポート、授業への参加態度によって総合的に評価する。

試験配点：50点/100点

領域	統合分野		単位（時間数）	1（30）
授業科目	医療安全		講義回数	14回＋テスト
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期 通年
担当講師	小池 久美		講師所属	
<p><授業のねらい></p> <p>医療安全に対する看護実践能力を身につけるために、次の内容の知識を学ぶことをねらいとしている。医療安全対策や医療現場で取り組まれている安全対策の概略、事故発生メカニズムと発生防止の考え方、自分自身の力で医療事故を回避する方策などについて学習する。医療に潜む事故のリスクを査定し、リスクを予防・回避して質の高いケアを提供する為の基礎的な知識を身につける機会としたい。</p> <p><授業目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマンエラーを起こす存在として自己を認識し、自己の行動を客観的に振り返ることができる。 2. 対象の日常生活の行動・生活環境・看護行為の中の危険因子を見いだすことができる。 3. 見いだした危険因子が引き起こす事故を予測できる。 4. 各医療現場に即した、医療事故 回避方策を考えることができる。 <p><授業概要></p> <p>医療事故発生メカニズム、分析方法、看護における医療安全の考え方 医療事故を予防するための組織的対策の具体的内容</p>				
<p>授業の進め方</p> <p>グループワークを主体として、教科書・資料などを使用した講義を実施することで授業を進める。</p>				
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② : 医学書院</p>				
<p>参考図書</p>				
<p>評価方法</p> <p>レポート課題、終講時試験、授業参加度にて総合的に評価。</p>				

領域	統合分野	単位(時間数)	1(30)														
授業科目	臨床看護の実践	講義回数	14回＋テスト														
	3年次	開講時期	前期 後期 通年														
担当講師	倉元 聖子	講師所属	福岡看護専門学校														
実務経験	国立病院機構福岡東医療センター、社団医療法人池友会香椎丘リハビリテーション病院で看護師として勤務																
<p><授業のねらい></p> <p>急速な少子高齢化の進展・医療技術の進歩など、わが国の看護を取り巻く環境が大きく変化する中で、患者の視点に立った質の高い看護・医療サービスを提供することができる看護職が求められている。</p> <p>この単元では、これまで学習した知識・技術の統合を図るとともに、看護の専門性・ケアの質の向上を追求する態度を身につけ、臨床実践において必要となる、判断力・行動力・看護をマネジメントできる基礎的能力を養うことをねらいとする。</p> <p><授業目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床現場でおこる様々な状況や多重課題に対応する看護師の判断力について、講義を もとに学ぶことができる。 2. 既習の知識を活用し、事例の状況に応じた患者看護の方法を考えることができる。 3. グループ学習を活用し、事例の状況に応じた場面において知識と技術を統合した援助が実施できる。 4. グループ活動・演習において主体的に学びを深める事ができる。 <p><授業概要></p> <table> <tr> <td>第1回</td> <td>授業計画内容説明 概要について</td> </tr> <tr> <td>第2回 第3回</td> <td>課題1への対応、事例の学習</td> </tr> <tr> <td>第4回 第5回 第6回</td> <td>課題2への対応 看護過程展開</td> </tr> <tr> <td>第7回 第8回 第9回</td> <td>課題1への対応 演習</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>課題1演習のリフレクション (ワーク)</td> </tr> <tr> <td>第11回 第12回 第13回</td> <td>課題2への対応 演習</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>課題2演習のリフレクション (ワーク)</td> </tr> </table> <p>授業の進め方</p> <p>教科書・資料などを使用し、事例を用いて講義とグループワークを進め、実技演習を行う。</p> <p>教科書</p> <p>現在まで用いたテキスト全てが対象となる。</p> <p>参考図書</p> <p>適宜紹介する。</p> <p>評価方法</p> <p>筆記試験や課題学習で評価を行う。</p> <p>なお、講義・グループワーク・演習への参加度・態度をもって総合的に評価する。</p>				第1回	授業計画内容説明 概要について	第2回 第3回	課題1への対応、事例の学習	第4回 第5回 第6回	課題2への対応 看護過程展開	第7回 第8回 第9回	課題1への対応 演習	第10回	課題1演習のリフレクション (ワーク)	第11回 第12回 第13回	課題2への対応 演習	第14回	課題2演習のリフレクション (ワーク)
第1回	授業計画内容説明 概要について																
第2回 第3回	課題1への対応、事例の学習																
第4回 第5回 第6回	課題2への対応 看護過程展開																
第7回 第8回 第9回	課題1への対応 演習																
第10回	課題1演習のリフレクション (ワーク)																
第11回 第12回 第13回	課題2への対応 演習																
第14回	課題2演習のリフレクション (ワーク)																

